

日弁連広報キャラクター「ジャフバ」のひみつ

佐内 俊之(第一東京)

1 チャームポイントは髪型

日弁連広報キャラクター「ジャフバくん」が誕生したのは2008年6月である。もともとは第23回司法シンポジウム「カウントダウン！みんなで築こう裁判員制度」のマスコットキャラクター公募の応募作品であり、準グランプリ受賞作であった(ちなみに、グランプリはサイ(動物)のキャラクター「サイサイ」である)。グランプリ作品に勝るとも劣らない完成度ゆえ、裁判員制度の広報だけでなく日弁連の広報活動全般での活用が相応しいとの声が高まり、日弁連広報キャラクターに採用されることになった。

「ジャフバくん」のチャームポイントは、何といてもその髪型。JFBA (Japan Federation of Bar Associations - 「日弁連」の英語表記の略称)の形になっている。職業は弁護士であり、胸に輝くのは弁護士バッジである。

2 誰からも親しまれるキャラクターを目指して

誕生以来、「ジャフバくん」は細々とではあるが着実に活用されてきた。日弁連のチラシやウェブサイトにも顔を出し、うちわ・ペンなどのグッズとなって市民の目に触れることもあった。もっとも、露出が増えたのは2017年頃以降、キャラクター改革がなされた後のことである。日弁連は2013年度以降「市民向け広報の充実」を会務執行方針に掲げ、広報室を中心に、弁護士・弁護士会のイメージアップを図り、弁護士に対する敷居を下げるための広報活動に取り組んできた。その中で「ジャフバくん」の力を再評価し、誰からも親しまれるキャラクターに改革した上で更なる活用を目指すことになった。

改革の第一は「ジャフバ」への改名。他のキャラクターも性別を定めぬ例が多く、日弁連の性格なども考え、名称から「くん」を外すことにした。改名を検討した会議では、「『くん』付けの方が親しみやすい」「今の時代なら『さん』付けが適当」という意見のほか「濁点が『ジ』『バ』の2つもあるのは可愛くない」と根本を覆すような意見も飛び出すなど、熱い議論が展開された。改革の第二はキャラクターの設定。誕生日・仕事・性格から好きな食べ物や趣味に至るまで、広報担当副会長と事務総長・事務次長を交えて大真面目に議論し、誰もが親しみを持てる設定を採用した。ちなみに、

「ジャフバ」の肩書は「日弁連えがお推進部長」である。

3 身軽になって日本全国へ

広報キャラクターにとって着ぐるみは決定的に重要なアイテムである。着ぐるみが街に出ると、まず子ども達が走り寄り、子どもを追って大人達も集まってくる。

初めて「ジャフバくん」の着ぐるみができたのは2013年。硬いウレタン製で、とにかく大きく重かった。弁護士会館のエレベーターに乗り込むのもギリギリ、中に入った人は頭部の重さに悲鳴を上げていたとかいかなかったとか…。

これでは街に出るのも難しいと2018年には着ぐるみを作り直すことになった。新しい着ぐるみは軽くて涼しい「エア着ぐるみ」を採用。内蔵ファンでポリエステル製の本体が風船のように膨らむ構造である。いろいろな場面での活用を想定し、衣装もピンクの法被とエメラルドグリーンのボレロを新調した。この新しい着ぐるみで「ジャフバ」の活動範囲は日本全国に広がった。輸送に軽トラックが必要だった旧着ぐるみに比べ、宅配便で送ることができる新着ぐるみは圧倒的に身軽である。2018年度には人権擁護大会(青森県)、東京・埼玉・大阪・京都・広島・福岡県などの弁護士会のイベント等への出張も果たしている。

4 日弁連・弁護士会・弁護士のために

このほかにも、日弁連広報室では「ジャフバ」を更に活用するため、さまざまな工夫や試みを行っている。名刺・シール・風船・塗り絵・ふせんなどのグッズの制作、小型ぬいぐるみの制作、SNS(TwitterとInstagram)での情報発信…。特に2018年3月に始めたSNSでは毎日欠かさず些細な情報を発信することを試みている。「ジャフバ」が広く市民に認知され、日弁連・弁護士会・弁護士の広報活動に大活躍するまではもう少し時間が必要かもしれないが、その日を夢見て地道な努力を続けていく予定である。

